

2024 11/26

No.2223

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



一の西とひの五日、開運や商売繁盛を願う「西とひらおとひの市」が金力比羅大鷲神社（横浜市南区）で開かれ、「商売繁盛、大繁盛」などと威勢の良いかけ声が響いた。今年ことしは三さんの西（29日）も。



contents

視点点描	
地域に支えられる新聞	3

講演録	
米大統領選の行方	4
～混迷深まる超大国はどこへ	
慶応義塾大学教授 渡辺 靖	

特集	
混乱の時代へ突入 早まるか台湾侵攻	8
トランプ政権2.0 大接戦？ 結果は圧勝	

政治双眼鏡	
国会復権の芽吹きとなるか	12
格差問題取り組む機会逃すな	

サヘル・ローズ×リアルワールド	
低い投票率、どうすれば	13

神奈川景気データファイル	14
--------------	----

事務局だより

◇2024年12月定例講演会 ＝シンポジウム・交流会

12月16日(月)午前11時～午後
1時30分

メルヴェーユ(桜木町駅近く)

講師：共同通信社政治部長

杉田 雄心

共同通信社経済部長

加藤 裕

共同通信社外信部長

清水健太郎

神奈川新聞社論説主幹

鈴木 達也

演題：「2025年の動向を読む」

◇2025年1月定例講演会

1月16日(木)午後2時～3時30分

ロイヤルホールヨコハマ

(横浜市中区山下町)

講師：歴史学者・本郷 和人氏

◇2025年2月定例講演会

2月13日(木)午後1時30分～3時

メルヴェーユ(桜木町駅近く)

講師：フェリス女学院大学

学長 小檜山 ルイ氏

◇2025年3月定例講演会

3月3日(月)午後1時30分～3時

ロイヤルホールヨコハマ

(横浜市中区山下町)

講師：元横浜高校野球部監督

渡邊 元智氏

【お知らせ】 神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



地域に支えられる新聞

いうものを、街の人々にみせてもらった」。先輩が多くの局員を前で話した退任あいさつは、地元新聞社と街の人たちとの信頼関係が描写されていた。

私も発生日、現地に派遣された一人だった。苦勞して送り出してくれた本社の舞台裏でこのようなやりとりがあったことを初めて知った。偶然にも今年6月に編集総務部に異動することになり、先輩の教えを引き継ぎたいという思いを新たにしたところだ。

だが、いまの時代に、このような親近感を持つて応援してもらえない関係がどれほど残っているだろうかとも自問する。日本新聞協会の調査によると、あの震災から5

通勤電車内で新聞を読む姿が消えた。スマホで見るとニュースに押され購読者が減少の一途をたどる中、紙媒体の役割とは何か。

答えの一例を横浜DeNAベイスターズの日本シリーズ優勝で目の当たりにした。あの11月3日の翌朝、「26年ぶりの日本一」を報じる号外を配る機会があった。行列ができるほどで、手渡し時に何人もが「ありがとう」「手に入っとうれしい」と言って笑顔で受け取ってくれた。この日の朝刊も完売状態。保存性が高く、手渡しで、回覧できるといふ新聞の特性を改めて思い起こす体験だった。

地元プロ野球球団の快挙というビッグニュースに助けられたのは確かだが、しばらく元気がなかった昨今、新聞を身近に感じてもらう良い機会となりそうだ。

(神奈川新聞社編集総務部長・

鈴木 秀隆)

手前みそな話で恐縮だが、今年6月に神奈川新聞1面のコラム「照明灯」に掲載された一文が強く心に残っている。

「地方紙はさまざまな人に支えられている。そんなことを定年後の再雇用期間を終えた同僚のあいさつで改めて知った」という内容だった。取材をバックアップする編集総務の仕事長く続けた大先

輩の言葉を取り上げていたことから、当時の状況が脳裏に浮かんだ。

1995年1月、阪神大震災の発生で、記者を現地に派遣するため先輩たちは手分けして奔走。物資を調達するため商店街で領収書の宛名を告げると、どこのお店でも店員さんたちが次々出てきて、励ましやおまけをもらったという。「被災地に届けたい『気持ち』と

おおよそ半減した。